

Patentfield 徹底調査レポート

強み・今後の動向・実務家向けの賢い使い方

2026 年 10 月 18 日（2026 年 10 月時点の公開情報に基づく）

Claude Opus 5.5

【凡例】本文中の上付き番号 [n] は、文末「参考文献」の番号に対応する。「確認済み」は公式サイト・プレスリリース等の一次情報で確認した事実、「分析」「推測」は筆者の分析・見通し、「未確認」は一次情報で裏付けを取れなかった事項を示す。価格はすべて税別。

要旨

結論：Patentfield の最大の価値は、月額 2 万～3 万円台から、検索式・AI 類似検索・教師あり AI 分類・可視化・生成 AI による一括処理を一つの画面で回せることにある^[1,2]。国内で最もコストパフォーマンスの高い「調査・分析の作業台」と評価できる（分析）。ただし、FTO や無効資料調査を単独で完結できる DB ではない。

強み：Corp-XS（5ID）月額 3 万円の価格帯^[1]で、教師データ最大 1 万件を数秒～10 秒で学習する AI 分類予測^[3]を使える。さらに、収録済みの 8000 万件の特許を生成 AI で要約・構造化した「AI サマリー」が Free プランを除く全契約者に標準機能として付き^[2,4]、最大 1 万件を一括処理する「Patentfield AIR」も選べる^[5]。

今後：2026 年 9 月、特許特化の独自 LLM「D シリーズ」と、検索式生成・分類提案・名寄せ・母集団解説を支援する「AI 検索サポート（仮）」が参考出展された^[6]。いずれも正式リリースは未確認である。2024 年 10 月から続いたパテント・インテグレーション社との生成 AI 特許訴訟は、2026 年 4 月 17 日に全件終了した^[7]。

賢い使い方（分析）：①検索式で網を張り、AI の類似度順で読む順番を決める。②過去の査読結果を教師データにして、SDI と社内分類を自動化する。③AI サマリーと AIR で「用途×課題」のマップを作る。④API と MCP で Claude 等から呼び出す。この 4 段構えが効率的である。ただし、FTO と無効調査の最終判断は、収録範囲・法的状態・ファミリーを他の DB で裏取りしてから行う。

1. 基本情報（確認済み事実）

1.1 会社概要

項目	内容
会社	Patentfield 株式会社（京都市中京区六角通室町西入玉蔵町 121 美濃利ビル 5 階）。2017 年 4 月設立 ^[8,9]
経営	共同 CEO：村上直也（CEO 兼 CTO）・石津孝祐 ^[2]
規模	公表された現在の従業員数は未確認。2020 年の採用ページでは 10 名との記載 ^[10] 。小規模な開発組織と推測される
資金調達	2018 年 4 月、日本ビジネスシステムズ（JBS）を引受先とする第三者割当増資を実施（金額非公開） ^[11] 。2018 年 11 月時点のポストバリュエーションは約 2.56 億円 ^[12] 。その後の大型調達は未確認
提携・販売	LTASS と業務連携の覚書（2019 年 1 月） ^[13] 。ジー・サーチが 2026 年 8 月 31 日に販売を開始 ^[14] 。九州・沖縄の大学連携プラットフォーム「PARKS」に導入（2025 年 11 月） ^[15]
導入企業	英語版公式サイトに、アズビル、イビデン、NOK、オリンパス、グローリー、コクヨ、セイコーエプソン、ダイセル、テルモ、フジクラ、LIXIL、ロート製薬、YKK、PayPay、早稲田大学、小西・中村特許事務所など 44 の組織のロゴを掲載 ^[16] 。総ユーザー数・導入社数は未公表
認証	ISO/IEC 27001:2022 および ISO/IEC 27017:2015（登録日 2024 年 11 月 27 日。認証範囲は Patentfield の開発・運営。AWS 上で運用） ^[8]

1.2 料金・プラン

プラン	月額	備考
Free	0 円	検索回数は登録初月 30 回/月、以降 20 回/月
BASIC（個人事業主）	1 万円（年払 10 万円）	クレジットカード払いのみ
Mini 1～4	2 万～2.98 万円	中小企業・特許事務所は特別割引（1.4 万～2.682 万円）。特許調査事業者は割引対象外
Corp-XS（5ID）	3 万円	
Corp-S / M / L	1ID あたり 5,500 円 / 5,000 円 / 4,500 円	それぞれ 6～15ID / 16～30ID / 31～50ID。50ID 超は要見積

出典：製品サイト^[1]。最低契約期間は 1 年で、入会金・初期費用はかからない^[17]。

1.3 主なオプション

オプション	料金（月額）
AI サマリーグローバル	Corp プランの月額料金の 30%（Corp プランのみ契約可。例：Corp-XS なら 9,000 円）

オプション	料金（月額）
Patentfield AIR（生成 AI 調査・分析）	1ID あたり 3 万円～
日本語横断検索／類似画像検索／PF レポート	各 1ID あたり 1.5 万円
SDI 配信件数の増強	+10 件ごとに 1ID あたり 1,000 円（最大 50 件まで）
Excel エクスポート件数の増強	+1,000 件ごとに 1ID あたり 500 円
作業グループ共有（Corp）	1ID あたり 500 円
分析母集団 50 万件超／API 連携	要見積
専用クラウド環境	5 万円～（初期費用 15 万円～）

出典：製品サイト^[1]、AI サマリーグローバルの料金はリリース^[2]も参照。

1.4 収録範囲

国・地域	主な収録開始年	備考
日本	特許・実用新案：1971 年発行以降 意匠：2000 年以降	審査記録・登録記録・審判記録などの経過情報を収録
米国	特許等：1976 年以降 公開：2001 年以降	
欧州	公開：1978 年以降 特許：1980 年以降	
中国	1985 年以降（意匠は 2016 年以降）	2009 年以前はテキストのみ
台湾	特許・意匠・実用新案：1991 年以降 公開：2003 年以降	
韓国	2016 年以降	2015 年以前は書誌（DOCDB）のみ
WO	1978 年以降	
DOCDB	1782 年以降	EPO の書誌データベース（100 以上の国・地域）。書誌情報のみ

出典：製品サイト^[1]。非特許文献（論文等）の収録と更新頻度は、製品ページに記載がなく未確認。

2. 主要機能

- ・ **プロフェッショナル検索**：100 種類以上のフィルターを使ったフィールド検索・コマンド検索^[18]。日本語横断検索オプションを付けると、日本語で海外公報を検索できる。2025 年 9 月 1 日には、主要国の公報で全文の日本語翻訳に対応した^[19]。

- ・ **AI セマンティック検索**：文章や公報番号から類似文献を探し、類似度の順に並べる。1,000 万件以上の特許情報で学習したと説明されている^[18]。製品サイトは「従来比で適合率約 3.8 倍向上」とうたうが、示されている例はクエリ 1 件（「樹脂をコーティングした金属板の製造方法」）だけである^[1]。
- ・ **類似画像検索・PF レポート**：2023 年 9 月 25 日にリリース^[20]。PF レポートは 13 種類のプリセットチャートから分析レポートを作る機能^[18]。
- ・ **AI 分類予測**：2 値・多クラス・マルチラベルの分類に対応する^[21]。2 値分類では 1 か -1 を、多値分類では任意のラベルを付ける。予測ラベルの候補は確度の高い順に最大 5 つ出力できる^[22]。教師データは最大 1 万件を数秒～10 秒で学習し、最大 10 万件を数秒以内に予測する。予測スコアは -1～1 で、特徴量のチューニングもできる^[3]。2021 年からは教師データ構築サポートも提供されている^[23]。
- ・ **AI サマリー（標準機能）**：公報を「用途・課題・効果・特徴」の 4 観点で要約し、用途ラベル・課題ラベルを付けたデータを収録している。平易な言葉での検索と、用途×課題のマッピングに使える^[2]。2025 年 10 月には名称・一文要約・技術キーワードが追加され、海外公報（US/EP/CN/KR/TW/WO）を日本語で扱う AI サマリーグローバルも始まった^[4]。
- ・ **Patentfield AIR（オプション）**：最大 1 万件を一括で処理できる。査読アシスタント（査読条件は最大 5 つ）、ポートフォリオ分析などの機能がある^[5]。月額 3 万円で処理できる件数は、使うモデルと時点で変わる（約 2 万件：GPT-5-nano、2025 年 9 月時点^[5]／約 3 万件：GPT-4.1-nano、2025 年 7 月時点^[24]）。
- ・ **SDI・共有**：知財部門と研究開発部門で教師データ・タグ・検索設定を共有できる「知的財産部門向けソリューションパック」がある^[25]。
- ・ **API 連携**：2022 年 11 月から有料オプションとして提供されている^[26]。公式 note では、API を MCP サーバ化して Claude Desktop から使う構築事例を連載している^[27-29]。

3. 2023～2026 年のアップデート時系列

時期	内容
2023 年 9 月 25 日	新 UI・PF レポート・類似画像検索をリリース ^[20,30]
2024 年 3 月 22 日	生成 AI（GPT-4・Gemini Pro）を使った特許査読支援の新サービス発表会を開催 ^[31]
2024 年 7 月 1 日	Patentfield AIR を正式リリース。最大 1 万件を一括処理。GPT-4o・Gemini 1.5 Flash に対応し、自前の API キーを使うプランでは Claude 3.5 Sonnet・Claude 3 Opus も選べる。画像認識にも対応 ^[32,33]

時期	内容
2024 年 10～12 月	パテント・インテグレーション社が東京地裁に提訴（10 月 25 日）し、11 月 27 日に追加提訴。12 月 25 日付のリリースで「4 件の特許権に基づく 6 件」の訴訟と公表 ^[34-36]
2024 年 11 月 27 日	ISO/IEC 27001・27017 に登録（12 月 9 日公表） ^[8]
2025 年 1 月 8 日	AIR の 2 週間無料トライアルを開始（GPT-4o-mini 使用時に約 1,000 件分） ^[37]
2025 年 2 月 5 日	Patentfield が見解を公表。侵害を主張されているのは AIR の一部機能だけで、サービスは継続すると説明 ^[38]
2025 年 7 月	AIR について、月額 3 万円で約 3 万件を処理できる（GPT-4.1-nano 使用時）と告知 ^[24]
2025 年 9 月 1 日	日本語横断検索が、主要国の公報で全文翻訳に対応 ^[19]
2025 年 9 月 9 日	AI サマリーを標準機能化（Free プランを除く）。AI 検索のアルゴリズムも改良 ^[2]
2025 年 9 月	知財・情報フェアで「調査目的を伝えるだけ」で特許調査を自動化する方向性を示す ^[39]
2025 年 10 月 1 日	AI サマリーグローバルを正式リリース。名称・一文要約・技術キーワードを追加 ^[4]
2025 年 11 月 4 日	大学連携プラットフォーム PARKS への導入を発表 ^[15]
2026 年 2～6 月	公式 note で「Patentfield API と MCP で作る知財 AI エージェント」を連載。Claude Desktop との連携、パテントマップの自動作成、構成要件比較表を扱う ^[27-29]
2026 年 4 月 17 日	訴訟が全件終了。2 件で民事調停法 17 条の「調停に代わる決定」が確定し、残りは取り下げ ^[7]
2026 年 4 月 24 日	GENIAC-PRIZE 領域 02 の特別賞「技術新規賞」受賞を発表 ^[40]
2026 年 5～6 月	関西ファクトリーイノベーション Week と人とするまのテクノロジー展で「MCP を活用した知財 AI エージェント構築」を講演 ^[41,42]
2026 年 8 月 31 日	ジー・サーチが販売を開始 ^[14] 。AIR は、AI サマリーとの連携で入力を公報全文の約 1/45 に圧縮し、インターネット上の情報も含めた分析にも対応したと公表 ^[6]
2026 年 9 月 16～18 日	独自 LLM「D シリーズ」と「AI 検索サポート（仮）」を参考出展（正式リリースは未確認） ^[6]
2026 年 9 月 29 日	JP の引用分析で項目を追加し、「引用・被引用」の集計項目を統合 ^[43]

4. 競合比較

4.1 比較表（評価は筆者の分析）

観点	Patentfield	国内の老舗 DB (Shareresearch、 CyberPatent Desk、 JP-NET、 PatentSQUARE 等)	グローバル大手 (Derwent、Orbit、 PatSnap、PatentSight)	AI ネイティブ系 (Amplified 等)
価格	月 2 万円～、5ID で月 3 万円 ^[1]	中～高（個別見積が中心）	年額で PatSnap 1.2 万～4 万ドル、Derwent 3 万ドル～、Orbit 1.5 万～6 万ドル（二次情報） ^[44]	製品により異なる（未確認）
日本語の検索式・JP 経過情報	◎	◎（JP の品質、名寄せ、運用ノウハウ）	○	△～○
AI 類似検索	○～◎	○	◎	◎
教師あり AI 分類	◎（高速で、SDI に直結）	○	○	△
生成 AI	◎（事前要約 DB+AIR 一括処理、LLM を選べる）	Shareresearch が AI 要約・AI 検索を 2026 年 10 月 5 日から提供 ^[45]	◎（PatSnap は 31 の MCP サーバを公開） ^[46]	○
海外収録・付加価値データ	△～○（KR は 2016 年～、その他は DOCDB 書誌のみ）	○～◎	◎（ファミリー、法的状態、人手で付与した付加価値データ）	○
API・エージェント連携	○（API は有償。MCP は自前で構築） ^[26,27]	△	◎	○

◎・○・△は筆者の相対評価。グローバル大手の価格は第三者ブログ（二次情報）による参考値。

4.2 第三者検証とユーザー評価

- ・ 安藤（2024）：CyberPatent Desk の概念検索をベースラインとして、PatentSQUARE、Patentfield（AI セマンティック類似検索）、Amplified を比較した。そのうえで、AI ツールで広く検索し、生成 AI で関連性を判定し、その結果をツールにフィードバックする連携手順を提案している。生成 AI だけで個別の特許を調べると、ハルシネーションのリスクがあるとも指摘している^[47]。
- ・ 安藤（2021）：Patentfield の AI 分類予測（2 値分類）を SDI に適用した検証である。1993～2004 年公開の 3,396 件を教師データにしたところ、年別の正解率・適合率・再現率はいずれも 0.8 を上回った。特徴量 SEC の条件では、正解率 0.899、適合率 0.967、再現率 0.901 だった。比較した Deskbee5 はやや高い値（同 0.948／0.978／0.954）を示した^[48,49]。
- ・ 導入事例（ベンダー提供）

- ー コニカミノルタコネクト：「独自のランク付けで最大 40%の工数削減」^[1]
- ー コニカミノルタビジネスアソシエーツ：SDIで 30～40%の工数削減^[18]（コニカミノルタコネクトと同じ会社かどうかは未確認）
- ー 小西・中村特許事務所：定期調査の査読を速めつつ品質を担保^[1]
- ー ピクシーダストテクノロジーズ：会議中にその場で検索して共有^[1]
- ・ **個人レビュー**：UI の使いやすさと無料プランを評価する声がある一方、2021 年時点では項目別検索の結果に不満を示す声もあった^[50]。2025 年の料金比較記事でも、月 2 万円～の価格と UI の使いやすさが評価されている^[51]。

評価の要点（分析）：「1 人～数人の知財部門が、自分で IPL と調査を回す」用途なら、Patentfield は価格対機能で最強クラスである。一方、大手が求めるグローバルな FTO、法的状態の精密な追跡、人手で付与した付加価値データ、長年かけて整えた名寄せ辞書が必要な場面では、Derwent や Orbit、あるいは国内の老舗 DB に分がある。

5. 弱み・注意点

- ・ **収録範囲の穴**：韓国は 2016 年以降、中国は 2009 年以前がテキストのみ、その他の国は DOCDB の書誌のみである^[1]。書誌のみの国では全文検索も AI サマリーも使えないため、独・仏・英・インドなどの権利確認には向かない。非特許文献は、製品ページの収録範囲に記載がない（未確認）。
- ・ **海外の権利状態・ファミリー**：JP の経過情報は収録されている^[1]。各国の法的状態（年金切れ、移行状況）の精度と網羅性は未確認であり、FTO では各国特許庁の DB や INPADOC 系で必ず裏取りする（分析）。
- ・ **AI 検索の精度**：「適合率約 3.8 倍」は自社による 1 クエリの例であり、再現率の数値も第三者検証も示されていない^[1]。セマンティック検索は上位 N 件に強い反面、表現が大きく異なる同一概念、数値限定、化学構造を取りこぼすおそれがある（分析）。
- ・ **生成 AI のリスク**：AI サマリーや AIR の出力には、ハルシネーションの可能性が残る^[47]。AIR のデータの扱いについて、evort の掲載ページは「API 環境では学習に利用されない」「OpenAI の場合は最大 30 日間保持」と説明している^[52]。ただし、この記載は公式の製品ページ（AIR）にはない。未出願の発明や顧客の機密を入力する場合は、専用クラウド環境（月 5 万円～）^[1]の要否、自前の API キーを使うプラン^[33]、ゼロデータリテンションの可否（未確認）を契約時に確認する。

- ・ **事業継続性**：小規模な組織と推測される（2020 年時点で 10 名）^[10]。訴訟は終わったが^[7]、決定の内容は公表されておらず、AIR の機能仕様に影響したかどうかは未確認。
- ・ **単独利用のリスク（分析）**：FTO や無効調査を「Patentfield+AIR」だけで完結させると、収録外の国、非特許文献、AI の取りこぼしの 3 点で見逃しが生じうる。鑑定レベルの調査には向かない。

6. 今後の動向

6.1 公表済み（確認済み）

- ・ **GENIAC-PRIZE の受賞システム**：審査官の思考プロセス「クレームの構造化→証拠の探索→対比判断」を AI で再現する。特許公報・審査基準など 1,000 億トークン超で継続事前学習した独自の特許特化モデルを基盤とし、Recall@100 を 42.22%から 70.22%に高めた。外部 API を使わない完全ローカル構成で、Patentfield への展開も検討すると公表している^[40]。
- ・ **独自 LLM「D シリーズ」と「AI 検索サポート（仮）」**：2026 年 9 月に参考出展された。AI 検索サポートが担うのは、同義語の拡張、特許分類の提案、検索式の生成・改良、公報・図面の読解支援、出願人の名寄せ、検索母集合の解説・絞り込みである^[6]。
- ・ **自動化の方向性**：「調査目的を伝えるだけ」で特許調査を自動化することを目指すと説明している^[39]。あわせて、API 連携による「自律型・知財 AI エージェント」の構築事例を展示会で紹介している^[41,42]。

6.2 推測（筆者の分析）

1. 2027 年にかけて「AI 検索サポート」が正式な機能になる可能性が高い。検索式の自動生成から母集団の解説までを担う、半エージェント型の機能になるとみる。
2. D シリーズは、機密性を重視する企業向けに「外部 API を使わない AIR」として、専用クラウドとセットで提供される可能性がある。
3. 公式の MCP サーバ（または MCP 対応 API）の提供は、競合への対抗上、時間の問題とみる。現時点で公式提供は未確認である。
4. 競合も生成 AI 対応を急いでいる。日立は Shareresearch で「AI 要約」「AI 検索」の提供を 2026 年 10 月 5 日に始めた。社内検証では、内容の確認時間を最大 90%、精読対象を最大 80%減らせたとしている^[45,53]。PatSnap は 31 の MCP サーバを公開し^[46]、WIPO も PATENTSCOPE で AI 支援検索を始めた（Version 1.0 はキーワード・日付範囲・国コード

による検索に限られる)^[54]。このため、生成 AI による要約があること自体は差別化要因でなくなりつつある。Patentfield の差別化軸は、①事前に構造化したデータ (AI サマリー) による低コストの大量分析、②特許特化のローカル LLM、③教師あり分類との一体運用の 3 点に移るとみる。

5. ジー・サーチ経由の販売^[14]によって、研究開発部門が論文と特許を横断して調べるニーズへの浸透が進む見込みである。

7. 賢い利用方法（実務家向け）

① 先行技術調査・無効資料調査

- ・ **2 段階で母集団を作る**：まず、FI/CPC・F タームとキーワードを組み合わせた検索式で、広めの集合（数千～数万件）を作る。次に、無効化したいクレームや発明提案書を入力し、AI セマンティック検索の類似度順に並べ替えて上位から読む。網羅性は検索式で、読む順番は AI で担保する考え方である（安藤（2024）の連携手順とも整合する^[47]）。
- ・ **逆方向のチェック**：AI 検索単独の上位数百件と検索式の結果を突き合わせ、検索式で拾えていない文献を抜き出す。その文献の分類やキーワードを検索式に戻すと、式の穴がわかる。
- ・ **AIR で一次スクリーニングする**：上位の候補群に「構成要件 A～D それぞれについて、記載の有無と段落番号を返せ」と一括で指示する。最終判断は必ず原文で行い、査読アシスタントで原文と並べて確認する^[5]。
- ・ **他のソースで補う**：非特許文献、2015 年以前の韓国、書誌のみの国は、J-PlatPat、各国特許庁の DB、論文 DB で補完する。

② FTO・侵害予防調査

- ・ 製品仕様書を AI 検索に入れて、取りこぼしを防ぐ網として使う。そのうえで、生きている権利に絞り込み、「本製品の構成との関係」の一次判定を AIR で行う。
- ・ 権利状態の最終確認は、各国特許庁と経過情報で行う。結論は「Patentfield でスクリーニング済み」までにとどめ、非侵害の判断は人と専門家が行う。

③ IP ランドスケープ・競合分析

- ・ **AI サマリーの用途・課題ラベルで用途×課題マップを作る**^[2]。追加の LLM コストはほとんどかからないので、経営向け資料の第一稿にする。

- ・ 社内の技術分類は AI 分類予測（多値・マルチラベル）で付ける：200～500 件ほどに人手でラベルを付けて学習させ、精度の低い区分だけ教師データを足すサイクルを回す。付けたラベルはマップの軸に使う。
- ・ AIR のポートフォリオ分析^[5]は、競合の出願群から「研究開発の方向性」「ホワイトスペース」を掘り出す仮説出しに使う。数値の根拠はマップ側で示す。

④ ウォッチング (SDI)

- ・ 過去の査読結果（関連は 1、ノイズは -1）をそのまま教師データにして、SDI で配信される公報に 2 値分類をかける^[3,22]。スコアの閾値で「必読」「流し読み」「スキップ候補」の 3 つに分ける。
- ・ 再現率を重視するテーマでは、閾値を低めにする。四半期ごとにスキップ群から抜き取って監査し、見逃しがないか確かめる。
- ・ 配信件数は増強オプションで最大 50 件まで増やせる^[1]。テーマの統廃合も合わせて設計する。

⑤ 生成 AI 機能 (AIR・AI サマリー) のプロンプトの工夫

- ・ 出力形式を固定する：「○／△／×＋根拠段落番号＋20 字以内の理由」のように決めておくと、Excel に出したあとでフィルタや集計がしやすい。
- ・ 判定基準を明記する：「明示的な記載のみを○とし、示唆は△とする」のように書く。
- ・ AI サマリーを入力に使う：大量の一次判定は AI サマリーを入力にして入力量を全文の約 1/45 に抑え^[6]、上位の候補だけ全文で処理する。
- ・ モデルを使い分ける：一次の振り分けは軽量モデル、対比の判定は上位モデルで行う。テンプレートとして保存し、チームで標準化する。
- ・ 教師データの点検にも AIR を使う：AI 分類予測の教師データの性能評価に AIR を使い、誤ったラベルを洗い出す^[37]。

⑥ 外部の生成 AI・API との連携

- ・ 公式 note の手順に沿って、Patentfield API を MCP サーバ化し、Claude Desktop から呼び出す。先行例の検索、集計とパテントマップの作成、構成要件比較表の作成までを自然言語で半自動化できる^[27-29]。

- ・ API 連携オプション（要見積）^[1]の契約が前提になる。機密情報の送信先（各 LLM の法人 API 条件）を社内で整理してから運用する。

⑦ 少人数の知財部門での効率化

- ・ 知的財産部門向けソリューションパックを使い、知財部が作った教師データやタグを研究開発部門と共有する^[25]。開発者の一次調査の品質がそう。
- ・ 開発部門には AI サマリー検索（平易な言葉で検索できる）と Free または Mini プランを割り当て、知財部は Corp プランと AIR で深掘りする。この二層構成が費用対効果に優れる（分析）。
- ・ 契約は年単位が前提である^[17]。導入前に、Free プランや無料トライアル（AIR は 2 週間、AI サマリーグローバルは 1 か月の実施実績あり）^[4,37]で、自社テーマの再現率を検証する。

8. 賢い利用法チェックリスト

- ☐ 検索式（分類＋キーワード）で母集団を作り、AI の類似度順で読む順番を決めたか
- ☐ AI 検索単独の結果と検索式の結果の差分を見て、式の穴を確認したか
- ☐ 過去の査読結果を教師データにして、SDI の 2 値分類と閾値を設定したか
- ☐ スキップ群の抜き取り監査（再現率チェック）を定期的に行っているか
- ☐ 社内の技術分類を AI 分類予測で付け、精度チェックで弱い区分を補強したか
- ☐ IPL で AI サマリーの用途・課題ラベルを使い、追加コストなしでマップを作ったか
- ☐ AIR のプロンプトに出力形式と判定基準を明記し、テンプレート化したか
- ☐ 大量処理は軽量モデルと AI サマリー入力で行い、精査だけ上位モデルと全文で行っているか
- ☐ 2015 年以前の韓国、2009 年以前の中国の図面・PDF、書誌のみの国、非特許文献を、他のソースで補完したか
- ☐ FTO の権利状態とファミリーを、各国特許庁・INPADOC 系で裏取りしたか
- ☐ 機密情報を AIR や API に入力する前に、送信先 LLM のデータ保持条件と専用クラウドの要否を確認したか
- ☐ D シリーズ、AI 検索サポート、公式 MCP の正式リリース情報を定期的に確認しているか

9. 留意事項

- ・ 料金・機能・収録範囲は、2026 年 10 月時点の公式製品ページとプレスリリースによる。更新頻度、総ユーザー数、海外の法的状態データの精度、AIR の最新の対応モデルと料金改定、訴訟の決定内容は未確認である。
- ・ 次の数値は、いずれもベンダーの発表値または事例である。条件によって効果は変わる。
 - － 「適合率約 3.8 倍」^[1]
 - － AIR の「約 65%短縮」^[37]
 - － 「最大 80%の効率化」^[15]
 - － 事例の「最大 40%」「30～40%」の工数削減^[1,18]
- ・ 競合の価格は第三者ブログ（二次情報）による^[44]。日立と PatSnap の数値・機能は各社自身の発表による^[45,46]。
- ・ D シリーズ、AI 検索サポート（仮）、公式 MCP の提供は、現時点では参考出展や構築事例の段階である。リリース時期は推測にとどまる。
- ・ 前回の調査レポートに含まれていた次の記述は、一次ソースで裏付けが取れなかったため本文書から外した：AI セマンティック検索の実装方式と特定の特許番号（いずれも生成 AI 作成の二次資料に由来）、従業員数（約 20 名・被保険者 13 名）、Amplified の価格、「SDI で 70～80%削減」の事例。
- ・ 前回の調査レポートから次の点を修正した：新 UI・PF レポート・類似画像検索のリリースは 2023 年 9 月 25 日であること。SDI への AI 分類適用（3,396 件・0.8 超）の数値の出典は Japio YEAR BOOK 2021 であること。AIR のデータ取り扱いの説明は公式の製品ページではなく evort 掲載ページにあること。

参考文献

URL は 2026 年 10 月 17～18 日に閲覧・確認した。PR TIMES 等の日付は掲載日。

- [1] Patentfield 株式会社「Patentfield パテントフィールド | AI 特許分析プラットフォーム」製品サイト（料金・オプション・収録範囲・導入事例）。<https://product.patentfield.com/>
- [2] Patentfield 株式会社「[Patentfield] 生成 AI で 8000 万件の特許を「見える化」。AI サマリー機能をリリース！グローバル特許にも対応した AI サマリーグローバルを 10/1 にリリースします。」PR TIMES, 2025 年 9 月 9 日。<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000059.000025380.html>
- [3] evort「SDI 調査（特許の定期調査）AI 分類予測による効率化」。<https://evort.jp/article/sdi>

- [4] Patentfield 株式会社「[Patentfield] 生成 AI で 8000 万件の特許を「見える化」。AI サマリーグローバルを本日 10/1 にリリース」PR TIMES, 2025 年 10 月 1 日。
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000060.000025380.html>
- [5] Patentfield 株式会社「Patentfield AIR | 生成 AI 調査・分析オプション」製品ページ（脚注は 2025 年 9 月時点）。<https://product.patentfield.com/air>
- [6] Patentfield 株式会社「Patentfield「2026 知財・情報フェア & コンファレンス」出展のお知らせ」PR TIMES, 2026 年 8 月 31 日。<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000067.000025380.html>
- [7] Patentfield 株式会社「パテント・インテグレーション株式会社と当社との間の特許権侵害訴訟の終了のお知らせ」PR TIMES, 2026 年 4 月 17 日。<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000062.000025380.html>
- [8] Patentfield 株式会社「Patentfield は「ISO / IEC 27001」「ISO / IEC 27017」の認証を取得しました」PR TIMES, 2024 年 12 月 9 日。<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000050.000025380.html>
- [9] Compalyze「Patentfield 株式会社（京都府）の会社概要・役員」（データ基準日 2026 年 10 月 1 日）。
<https://compalyze.co.jp/company/7130001059685>
- [10] Wantedly「特許・技術情報の活用を普及させるプラットフォームを支えるエンジニア募集－Patentfield 株式会社」2020 年 8 月（募集終了）。<https://www.wantedly.com/projects/497594>
- [11] Patentfield 株式会社「AI などで特許調査・分析業務を効率化させる Patentfield、日本ビジネスシステムズ株式会社から第三者割当増資を実行」PR TIMES, 2018 年 4 月 16 日。
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000005.000025380.html>
- [12] INITIAL（スピーダ スタートアップ情報リサーチ）「Patentfield 株式会社」企業情報（2026 年 10 月 8 日更新）。<https://initial.inc/companies/A-30295>
- [13] Patentfield 株式会社「Patentfield 株式会社と LTASS 株式会社、業務連携に関する覚書を締結」PR TIMES, 2019 年 1 月 31 日。<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000008.000025380.html>
- [14] 株式会社ジー・サーチ「論文・特許を活用した研究開発・知財 DX を支援」共同通信 PR ワイヤー, 2026 年 8 月 31 日。<https://kyodonewsprwire.jp/release/202608264736>
- [15] Patentfield 株式会社「九州・沖縄圏域の大学連携プラットフォーム「PARKS」に、『AI 特許総合検索・分析プラットフォーム Patentfield』が導入されました」PR TIMES, 2025 年 11 月 4 日。
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000061.000025380.html>
- [16] Patentfield「AI Patent Search, Analytics and investigating database for Japan and US」（導入企業ロゴ一覧）。<https://en.patentfield.com/>
- [17] Patentfield「Pricing」（最低契約期間・初期費用）。<https://en.patentfield.com/pricing>
- [18] evort「AI 特許検索・分析プラットフォーム Patentfield（パテントフィールド）」Patentfield 株式会社掲載ページ。<https://evort.jp/presentations/patentfield/platform>
- [19] Patentfield 株式会社「Patentfield「日本語横断検索」機能が主要国すべてで「全文」翻訳対応に！本日 9/1 アップデート版をリリース」PR TIMES, 2025 年 9 月 1 日。
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000058.000025380.html>
- [20] Patentfield 株式会社「Patentfield 新機能「類似画像検索」「PF レポート」リリースのお知らせ」PR TIMES, 2023 年 9 月 25 日。<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000043.000025380.html>
- [21] 安藤俊幸「機械学習を用いた効率的な特許調査方法 一単語・文書のベクトル化方法と特許調査への応用一」Japio YEAR BOOK 2020, pp.222-233.

https://www.japio.or.jp/00yearbook/files/2020book/20_3_03.pdf

- [22] Patentfield サポートポータル「かんたん 3 ステップ AI 分類予測」.
<https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/%E3%81%8B%E3%82%93%E3%81%9F%E3%82%93-%E3%82%B9%E3%83%86%E3%83%83%E3%83%97%E5%88%86%E9%A1%9E%E4%BA%88%E6%B8%AC>
- [23] AIRobot-NEWS「Patentfield、教師データ構築サポートの提供を開始」2021 年 4 月 16 日.
<https://airobot-news.net/2021/04/16/patentfield-5/>
- [24] Patentfield「ウェビナー『基本機能レクチャー & 生成 AI 機能 Patentfield AIR の実演』を開催！」2025 年 7 月 1 日.
<https://en.patentfield.com/news/290>
- [25] Patentfield 株式会社「Patentfield 新プラン『知的財産部門向けソリューションパック』をリリース」PR TIMES, 2020 年 12 月 3 日.
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000021.000025380.html>
- [26] Patentfield 株式会社「「Patentfield」API 連携サービスの提供を開始」PR TIMES, 2022 年 11 月 7 日.
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000036.000025380.html>
- [27] Patentfield 執筆担当「Patentfield API と MCP で作る「知財 AI エージェント」開発(2)」note, 2026 年 2 月 25 日.
https://note.com/super_whale150/n/n3620fe9b593a
- [28] Patentfield 執筆担当「パテントマップ自動作成と知財 DX の実践例－Patentfield API と MCP で作る「知財 AI エージェント」開発(4)」note, 2026 年 4 月 27 日.
https://note.com/super_whale150/n/n89709e9be848
- [29] Patentfield 執筆担当「AI エージェントでつくる構成要件比較表－Patentfield API と MCP で作る「知財 AI エージェント」開発(6)」note, 2026 年 6 月 24 日.
https://note.com/super_whale150/n/n2e666ef82e9e
- [30] Patentfield「3 つの新機能「新 UI」「PF レポート」「類似画像検索」をリリースします」2023 年 9 月 8 日.
<https://en.patentfield.com/news/236>
- [31] Patentfield 株式会社「Patentfield 生成 AI を活用した特許査読支援の新サービス発表会を開催します」PR TIMES, 2024 年 2 月 28 日.
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000045.000025380.html>
- [32] Patentfield 株式会社「『AI 特許総合検索・分析プラットフォーム Patentfield』生成 AI を搭載した新オプションサービスを 7/1 リリース」PR TIMES, 2024 年 5 月 30 日.
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000046.000025380.html>
- [33] Patentfield「「生成 AI 調査・分析オプション Patentfield AIR」を本日 7/1 リリース」2024 年 7 月 1 日.
<https://en.patentfield.com/news/256>
- [34] パテント・インテグレーション株式会社「Patentfield 株式会社に対する生成 AI に関する特許権侵害訴訟の提起について」PR TIMES, 2024 年 10 月 29 日.
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000008.000086119.html>
- [35] パテント・インテグレーション株式会社「Patentfield 株式会社に対する生成 AI に関する特許権侵害訴訟の追訴提起について」PR TIMES, 2024 年 11 月 28 日.
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000009.000086119.html>
- [36] パテント・インテグレーション株式会社「「AI 特許総合検索・分析プラットフォーム Patentfield」および「Patentfield AIR」に対する 4 件の特許権に基づく 6 件の特許権侵害訴訟提起のお知らせ(3)」PR TIMES, 2024 年 12 月 25 日.
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000010.000086119.html>

- [37] Patentfield 株式会社「生成 AI が特許をシンプルに。Patentfield AIR の無料トライアル受付開始」PR TIMES, 2025 年 1 月 8 日. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000051.000025380.html>
- [38] Patentfield「生成 AI に関する特許権侵害訴訟における当社見解について」2025 年 2 月 5 日. <https://en.patentfield.com/news/278>
- [39] 萬秀憲「調査目的を伝えるだけで自動特許調査の実現目指す Patentfield」よろず知財戦略コンサルティング ブログ, 2025 年 9 月 15 日. <https://yorozuipsc.com/blog/september-15th-2025>
- [40] Patentfield 株式会社「Patentfield 経産省・NEDO 主催「GENIAC-PRIZE」官公庁の審査領域における生成 AI 開発にて特別賞「技術新規賞」を受賞」PR TIMES, 2026 年 4 月 24 日. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000063.000025380.html>
- [41] Patentfield 株式会社「〔関西〕ファクトリーイノベーション Week 2026 出展のお知らせ」PR TIMES, 2026 年 4 月 24 日. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000065.000025380.html>
- [42] Patentfield 株式会社「人とくるまのテクノロジー展 2026 NAGOYA 出展のお知らせ」PR TIMES, 2026 年 5 月 12 日. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000066.000025380.html>
- [43] Patentfield「アップデートのお知らせ_引用分析 (JP) の項目追加と「引用・被引用」集計項目の統合」2026 年 9 月 29 日. <https://en.patentfield.com/news/324>
- [44] Hayat Amin「PatSnap vs Derwent vs Orbit Intelligence: The 12-Criteria Comparison (And the One Use Case Where Each One Wins)」Beyond Elevation, 2026 年 6 月 12 日. <https://beyondelevation.com/insights/patsnap-vs-derwent-vs-orbit-comparison>
- [45] 株式会社日立製作所「特許情報提供サービス「Shareresearch」に生成 AI を活用した新機能「AI 要約」「AI 検索」を追加し、研究開発部門の特許調査の効率化と特許情報の活用促進を支援」2026 年 9 月 14 日. <https://www.hitachi.co.jp/Div/jkk/press/news/260914.html>
- [46] Patsnap Insights Team「Best AI Patent Tools in 2026: 9 Tools Across the Workflow」PatSnap, 2026 年 8 月 14 日. <https://www.patsnap.com/resources/blog/articles/best-ai-patent-tools-2026/>
- [47] 安藤俊幸「AI 特許調査ツールと生成系 AI の連携による高精度化検討 ―生成系 AI を活用した特許情報活用の新パラダイム―」情報の科学と技術, Vol.74 特集号, 2024 (J-STAGE 公開 2024 年 8 月 1 日). DOI:10.18919/jkg.2024-026. https://www.jstage.jst.go.jp/article/jkg/74/Special_Issue/74_2024-026/_html/-char/ja
- [48] 安藤俊幸「機械学習を用いた効率的な特許調査方法 ―「人間知能」主導による AI の特許調査への応用―」Japio YEAR BOOK 2021, pp.250–261. https://www.japio.or.jp/00yearbook/files/2021book/21_3_03.pdf
- [49] 安藤俊幸「特許調査における AI クラス分類の精度評価 ―SDI 特許調査への教師有りクラス分類の応用―」第 18 回情報プロフェッショナルシンポジウム予稿集, pp.13–18, 2021. DOI:10.11514/infopro.2021.0_13. https://www.jstage.jst.go.jp/article/infopro/2021/0/2021_13/_article/-char/ja
- [50] arisada「特許検索・特許調査ツールの比較まとめ」note, 2021 年 7 月 11 日. <https://note.com/arisadaman/n/n24360aa71aa3>
- [51] 声で聞く知財 (コエチザ)「【2025 年更新】特許検索・調査・分析ツールの料金プランまとめ」note, 2025 年 7 月 25 日. https://note.com/voice_chizai/n/nc781fa68c48f
- [52] evort「生成 AI 特許検索・調査・分析・査読 | Patentfield AIR」Patentfield 株式会社掲載ページ.

<https://evort.jp/presentations/patentfield/patentfield-air>

[53] 石井一志「日立、特許情報サービスに生成 AI を用いた「AI 要約」「AI 検索」機能を追加」クラウド Watch, 2026 年 9 月 15 日. <https://cloud.watch.impress.co.jp/docs/news/2140633.html>

[54] WIPO「PATENTSCOPE AI-Assisted Search Now Available」2026 年 7 月 2 日.
<https://www.wipo.int/en/web/patentscope/w/news/2026/patentscope-ai-assisted-search-now-available>